

E S Dカレンダーを活用した取り組みについて

四日市市立三重平中学校 角間 由起子

環境教育ネクストステップ研究会の2014年の活動で「教科書中のE S D（持続可能な開発のための教育）教材の体系化」を目指して作成した「E S Dカレンダー中学校版」。研究会で素案を作成した後、本校を会場にし、本校の実状にあわせた状態に修正を加えながら、E S D教材の取り扱いや、研究会に対する要望等の情報交換を行った。

この活動をする中でE S Dに関する教材がどの教科にもたくさんあること、担当外の教科も同じような内容や教材を扱っていることなどを本校の職員にも実感してもらうことができた。

活動で確認できたこととして、技術科では1学期にいろいろな発電方法やエネルギーの有効活用について生徒が学習していることを確認し、3学期に環境を取り扱う社会科・理科が技術科の既習事項や、相互の指導内容を意識して生徒の中で知識が融合するような授業展開を心がけた。例えば社会科では、環境権、地域の取り組み、政策等、人間の生活に重きを置き、理科では生態系、科学技術等に重きを置きながら指導者側が他教科を意識しながら指導することができた。



今年度当初、3年を担当することになった理科・社会科の教員が三重県環境学習情報センターの出前講座の申し込みをして、2月16日に教科合同の講演会を実施した。演目は『防ごう温暖化！～私たちにできること？～』内容は①地球温暖化問題とは②地球温暖化のメカニズム③省エネのとりくみ等、既習内容の確認ができるものだった。

この講演会に参加して感じたことは、講演の内容のメモを取りながらうなずいていたり、質問された内容をきちんと考えたりと、意欲的に参加している生徒が多く見られた。生徒の様子より、いろいろな教科の学習をつなぐ役目として、外部講師を活用するというのも有効ではないかと感じた。講演会の内容も教科の指導を意識したり、生徒の理解度を意識しながら、多様な観点から考えるワークショップや、指導事例があれば生徒の理解や思考を深めたり教科の内容を統合するために活用したいと思った。



教科書に使用されている資料やコラムを指導するときに、指導者が少しE S Dや他教科の既習内容を意識することで、E S Dのための時間を何時間も集中してとることなく、進めていける可能性はまだまだあると感じた。